

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大分県立三重総合高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☒ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他 (例: 小中高一貫)
所在地 〒879-7141 大分県豊後大野市三重町秋葉 1 0 1 0 番地
E-mail a3260@oen.ed.jp
Website //kou.oita-ed.jp//miesogo/
幼児児童生徒数 男子 193 名 女子 253 名 合計 446 名
幼児・児童・生徒の年齢 15 歳 ~ 18 歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成 2 9 年 4 月 ~ 平成 3 0 年 3 月

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要

当校は教育資源としての地域の魅力を再発見し、地域との交流を深めることを通じて、地域を愛し、地域に支えられる学校づくりをめざしている(地域理解・地域貢献)。またこのESDの活動を通じて、地域の方々と協力して地域の魅力や郷土愛を醸成し、地域に貢献できる人材を育成すことを目標とした。

具体的には、「地域理解・地域交流」を柱に①地域の植生に係わる活動 ②地域の伝統文化の継承に係わる活動 ③地域の問題解決に係わる活動を行った。

①地域の植生に係わる活動

地域の自然や環境について主体的に学び、その魅力や課題について総合的に学び、地域の自然の保全の大切さを理解することを目的に「ミエソウタンポポの正体を探る」と題して自然科学部で取り組んだ。この研究は高校の敷地内に総苞片のむけていないセイヨウタンポポとは異なる黄色のタンポポを複数発見したことを始まり、形態観察、花粉観察、染色体数観察、DNA分析等による研究の結果、カンサイタンポポとセイヨウタンポポの三倍体雑種であることがわかった。これまでに大分県でこのタイプの雑種が発見されたことがなく、今後は飛来経過を調査して行く。

②地域の伝統文化の継承に係わる活動

地域の伝統文化が将来に受け継がれることの大切さを理解し、その保全などの課題に対して他者と共に考え、取り組む態度や価値観を育むことを目的として、地域に伝わる神楽を継承するために本校は「神楽部」を設置した。本校は県の教育改革により平成 18 年に大分県豊肥地区の三重高校、三重農業、緒方工業、竹田商業の 4 校が統合して三重総合高校が開校した。その時に三重高校にあった「神楽部」を三重総合高校に継承し現在に至っている。三重高校から創部 19 年であり、東九州地方に広く伝わる浅草流岩戸神楽の習得のため現在部員 19 名で日々練習に励んでいる。学校行事を始め福祉施設や地区のお祭り等地域の内外を問わず公演活動を行い今年度は 30 公演を開催した。また、近隣の神楽の発祥といわれる御嶽山を競歩大会のコースに選び神楽を身近に感じる取組をしている。

③地域の問題解決に係わる活動

地域の産業や人々の暮らしについて主体的に学び、その魅力や課題について総合的に学習することを目的として「豊後大野市課題解決・魅力発見プロジェクト」に取り組んでいる。この取組は、より地域に即したものとするために市長より地域が抱える問題について課題を提示してもらい、習得した知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をはぐくみ、主体的な学習態度やコミュニケーション能力を養う、まさに現在求められている学力を育てるものである。あわせて郷土愛を醸成し、地域の未来を支える人材の育成も目的としている。研究テーマは 4 分野 11 テーマであり以下のとおり。

【プロジェクトテーマ】

(暮らし) すべての人が、安心して快適に暮らせるまち

- ・子育て支援
- ・若者定住
- ・買い物弱者
- ・空き家活用

(文化) 大人も子どももいきいきと学ぶまち

- ・小中学生の学力向上
- ・情報発信と情報活用、コミュニティの拠点としての図書館

(観光) おもてなしの心で地域の魅力を発信し続けるまち

- ・地域の観光資源再発見
- ・スポーツツーリズム（スポーツ施設や空き家の活用）

(産業) 持続可能な仕事でいきいきと働けるまち

- ・6次産業化に向けた課題と対策
- ・鳥獣被害対策
- ・GAP（農業生産工程管理）認証に向けての取り組み

①地域の植生に係わる活動



②地域の伝統文化の継承に係わる活動



③地域の問題解決に係わる活動



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16.ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. (地域課題)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(郷土愛)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・日本のタンポポとセイヨウタンポポ どうぶつ社
- ・タンポポ ハンドブック 文一総合出版
- ・私のタンポポ研究 さ・え・ら書房
- ・タンポポ調査 西日本2015調査報告書 タンポポ調査西日本実行委員会
- ・APG 分類体系による大分県高等植物目録
- ・植物の顕微鏡観察 地人書館
- ・ベネッセ教育情報サイト Benesse.jp/kyouiku/201503/20150310-6.html
- ・タンポポ <https://ww1.fukuoka-edu.ac.jp/~fukuhara/keitai/tanpopo.html>
- ・近畿における雑種タンポポの分布状況
www.nature.or.jp/Tampopo/Kinki_2005Final_Report
- ・古事記①②③ 小学館 ・風土記 小学館 ・神楽と出会う本 アルテスパブリッシング ・古代出雲と神楽 新泉社 ・神楽三十三番 みやざき文庫 ・日本の古典を読む日本書紀上下 小学館

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では地域の植生に係わる活動と地域の伝統文化の継承に係わる活動については特別活動の部活動の取り組みとし、地域の問題解決に係わる活動においては１．２年生の「総合的な学習の時間」で取り組んだ。

地域の問題解決においては豊後大野市や県の振興局と連携をとり、地域に即した取り組みとなり、生徒に郷土愛が醸成されるように工夫している。また、地域に係わる活動と地域の問題解決に係わる活動は、地域の大ホールで地域の方々を招いて発表会を行うなど地域に還元できる取り組みとなるように工夫している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

新たに組織や体制を作りユネスコスクールの活動に取り組むと、職員の負担感が懸念され今後の取組の継続性を考慮し、既存の組織の中に「持続可能な開発のための教育」の理念について取り組める教科、分掌、行事の中で取り組むようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ネスコスクールの取り組みを学校評価の取組指標の中に入れて、学校評議員に評価していただいている。全校生徒が参加する「学習成果発表会」に学校評議員を招き、生徒の活動を評価している。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動成果は「学習成果発表会」と学校が毎月発行するフライヤーにより発信している。学習成果発表会発表会は今年初めて計画し、ユネスコスクールの取り組みと本校の学習活動を合わせて発表会を実施した。フライヤーについては近隣の中学生約1500名に向けて発信した。

中学生には本校の取り組みを知ることにより本校を志望する動機となった。また「学習成果発表会」の聴衆からのアンケートによると、高校生の発表態度や研究内容のレベルの高さに感心したとの感想が得られている。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

豊後大野市 兵庫県立人と自然の博物館 大分大学理工学部

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

近隣のユネスコスクールに認証されている「佐伯市立宇目緑豊中学校」の実践発表会に参加し、今後連携について検討中である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（２００字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールによる主体的な学びの取り組みに係る生徒アンケートを年度末に取った。その結果、自分の語彙力が不足していると認識した生徒が 78%、この取り組みが自分のためになったと答えた生徒が 92%と自分の能力を認識し、積極的に学ぼうとする生徒が見られた。

（３）平成 30 年度の活動計画（２００～４００字程度）

本年度は、地域の問題解決に係わる活動として地域の産業や人々の暮らしについて主体的に学ぶ「豊後大野市課題解決・魅力発見プロジェクト」に取り組んだ。生徒はこれまで問題解決学習の経験が乏しく戸惑っていたが、生徒間や外部の大人と協働する中で、自分の能力の中で不足する部分を発見し、より学習を深めようとしていた。来年度もこの地域の問題に係わる活動を継続して行きたい。